

Glocal Tenri



12

月刊 グローカル天理 Monthly Bulletin Vol.25 No.12 December 2024

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University

CONTENTS

- 巻頭言
「聖地巡礼」
／井上 昭洋 1
- 文脈で読む「身上さとし」(16)
明治 22 年 3 月～4 月
／深谷 耕治 2
- 英語文献にみる天理教 (7)
D.C. グリーンの『Tenrikyō』(3)
／尾上 貴行 3
- ◁ 音のちから—中国古代の人と音楽 (23)
出土物が語る音の世界—漢代説唱俑の
魅力—
／中 純子 4
- ブラジルの宗教的風景 (2)
ブラジルの宗教と移民②
／中西 光一 5
- ニューヨーク通信 (22)
アメリカ大統領選挙
／福井 陽一 6
- 2024 年度公開教学講座要旨：『逸話篇』
に学ぶ (10)
第 3 講：135 「皆丸い心で」
／岡田 正彦 7
- おやさと研究所ニュース 8
第 371 回研究報告会 (10 月 21 日)
／新刊紹介／2024 年度公開教学講座
のご案内

巻頭言

「聖地巡礼」

おやさと研究所長 井上昭洋 Akihiro Inoue

現在では聖地の意味が拡張されて、宗教性をまとわぬ「聖地」も存在する。たとえば、甲子園が高校野球の聖地と呼ばれるのは、高校球児にとって一度はプレーしたい特別な場所であるからだ。一方、ロンドンのアビー・ロードの横断歩道や米国ミシシッピ州チューペロのエルビス・プレスリーの生家は、ビートルズやプレスリーのファンが訪れる聖地である。また、テーマパークのディズニーランドもディズニー・ファンにとっては聖地と言って良いかもしれない。これらの「聖地」を訪れることも巡礼と呼ぶことができる。ディズニーランドの場合、訪れた人が目当てとする複数のアトラクションを巡るその様子は、それぞれ前号で紹介した聖地内のミニ巡礼そのものである。

本来、巡礼は聖地を訪れることであるので、「聖地巡礼」という言葉は日本語としてやや冗長な印象を与えるが、昨今この言葉は映画やアニメにゆかりのある場所を訪れることを意味して用いられるようになった。それは経済効果が期待される町おこしのコンテンツとして新たに誕生したものとも言える。女子高生の日常を描いたアニメ『らき☆すた』の舞台となった埼玉県久喜市の鷲宮神社は、アニメ放送前の 2007 年に 9 万人だった初詣客が翌 2008 年には 30 万人に増加し、それ以降の 10 年間の経済効果が約 31 億円と算定される最も成功した“巡礼地”となった。また、映画『君の名は。』の場合、東京・四谷の須賀神社の男坂や岐阜県飛騨市の飛騨古川駅、飛騨市図書館、気多若宮神社など、幾つかの人気スポットがあり、ファンの間で映画の舞台（のモデル）となった場所を巡る「聖地巡礼」がなされる。

聖性を伴った場所に遠方より参詣することが一般的に考えられる巡礼である。それは信仰者が自らの信仰を新たにす宗教的な儀礼行為でもある。一方、「聖地巡礼」は、ある社会集団にとって特別な意味を持つ（しかし、

宗教的な聖性を伴わない）場所を“聖地”と呼び、そこを訪れることを“巡礼”と見なしに行う行為である。形容矛盾になるが、聖性の欠落した俗的な聖地を訪れ、そこで神や仏に祈りを捧げることのない巡礼をするのだ。それはアニメブームに乗った観光産業のなかで繰り広げられる一種の娯楽、消費活動とさえ見なすことができる。このように「聖地巡礼」を捉えると、その行為を巡礼と呼ぶことにある種の違和感を感じる人がいるかもしれない。それはアニメブームのなかで始まった“まがい物”の巡礼であって、宗教儀礼としての“本物”の巡礼とは異なると考えるのである。

しかし、はたして伝統的な巡礼と「聖地巡礼」を比べた時、前者が本物で後者がまがい物と言い切れるのだろうか。八十八カ所の霊場を巡る四国遍路は、21 世紀に入ってから長期的なブームが続いているが、その巡礼参加者は必ずしも熱心に弘法大師の教えを信仰しているとは限らないだろう。むしろ彼らの多くは大師信仰に拘ることなく自分探しの旅として観光も兼ねて霊場を巡っているのではないかと。スペインのサンティアゴ巡礼に赴く日本人もみな敬虔なキリスト教徒というわけではなく、海外旅行や巡礼そのものが趣味という人が多いのではなかろうか。そのように考えると伝統的な巡礼も非宗教的な要素を内包しているように思われる。

第 75 番札所の普通寺を訪れた真言宗の信徒が境内で弘法大師の存在を身近に感じ、自身の入定信仰を新たにするという体験と新海監督のファンが須賀神社の男坂に佇み、映画のワンシーンを思い返すという行為は、前者が信仰的な営みであり、後者はアニメブームに乗った一種の観光と捉えることができる。確かに伝統的な巡礼と「聖地巡礼」との間に聖俗の線引きはできるのだが、いずれにおいても巡礼者は自らの思いを確認するために“聖地”を目指すのであり、そのことを考えれば両者は地続きであるとも言えるだろう。